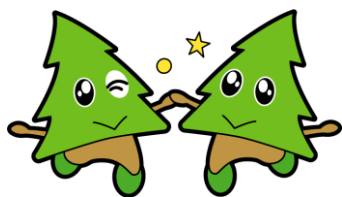


# あきたスギッチファンド通信



No. 4 2010年7月27日発行

特定非営利活動法人  
**あきたスギッチファンド**

TEL 018-839-8941

FAX 018-829-5803

E-mail : madoguchi@sugicchi-fund.jp

## ファンドの状況

(7月20日現在平成22年度収入済額)

寄付金合計	824,497円
会費合計	242,000円
ファンド総額	<u>1,066,497円</u>



あきたスギッチファンドの新しいリーフレット

特定非営利活動法人あきたスギッチファンドは4月23日の総会を経て、今年度の事業を本格的に始動させました。2年目の危機という言葉もありますので、法人設立当初の意気込み、熱気を維持しながら、気を引き締めて活動して参りたいと思いますので、よろしくご支援をお願い申し上げます。

2年目を迎えて“スギッチファンド”の趣旨が理解され、応援しようとする企業や団体、個人が少しずつ増えてきていることが感じられ、大変うれしく思っております。

昨年度末には、冠ファンドとして、東邦技術株式会社様から「TOHO子育て安心ファンド」、株式会社アジマックス様から「だんまや水産秋田まちづくりファンド」にと各40万円をご寄付頂きました。今年度に入ってアサヒビール株式会社秋田支社様から「環境の保全」を分野指定して16万円をご寄付頂きましたし、NPO法人秋田パドラーズ様からはカヌー体験をスギッチ応援と名付けて、その乗船体験料をご寄付頂いております。JTB秋田支店様、㈱あくら様、エチゴヤ漢方薬局様からも多額の応援を頂いております。

皆さんは社会貢献型自動販売機を目にしたことがありますか。みちのくコココーラボトリング様は、スギッチ応援自販機を遊学舎や県立大学など21箇所に設置、また、㈱秋田ダイドー様は、自殺予防の分野を指定した自販機を3箇所に設置、いずれも販売額の一部が当ファンドに寄付され、当ファンドの助成金として活用されています。“1本のドリンクで社会貢献”として注目されている新しい仕組みです。

個人のご寄付は秋田県庁の有志の皆様をはじめ、476人からご寄付頂いております。

ファンドへの寄付はまだまだこれから多方面にお願いしなければなりません。ということで、リーフレットをリニューアルしましたので、ぜひご覧になって下さい。

## 第三回あきたスギッチファンド助成事業

2010年7月17日に第3回の公開審査会と選考委員会を行い、助成先16団体を決定しました。第3回の助成事業は、秋田県の補助金300万円を原資として、本ファンドの10万円コース9件、30万円コース7件と、冠ファンドの30万円コース2件を、5月16日から募集しました。6月16日の締め切りまでに10万円コースに14件、30万円コースに17件、冠ファンドの「T O H O子育て安心ファンド」に1件、「だんまや水産秋田まちづくりファンド」に3件の応募が寄せられました。

7月17日の選考委員会は朝9時に開会しました。選考委員の方々は暑い部屋で汗をふきふき話し合いを重ねましたが、選考は難航し、予定時間をオーバーして、午後4時40分になって助成先の発表に漕ぎ着けることができました。



選考委員会

## 助成先一覧

### 本ファンド10万円コース

応募総数14件の中から9件を採択する予定でしたが、選考委員会で審査基準に照らし合わせて7件を採択しました。

団体名	事業名、事業概要
JCF・同路人	<b>残留孤児って何？</b> 県内の28人の残留孤児の道のりを聞き取り調査、冊子を作成して地域等に配布。戦争のない平和な世の中になることを願い、事実を公表する。
能代おやこ劇場	<b>劇団風の子公演『なんかよーかい』</b> 劇団風の子は舞台鑑賞で学ぶものの大きさ、人と関わることの大切さを伝えてくれる劇団。生の舞台の鑑賞を通して、子どもたちの想像力を刺激し、豊かな感性を育むきっかけとする。
日本網膜色素変性症協会 秋田県支部	<b>医療講演会とスマート電子白杖体験会</b> 網膜色素変性症の専門医による最新の治療法研究の講演会を開催。また県内の160名の登録患者に案内状を出し、秋田県立大学で開発されたスマート電子白杖体験会を実施。
カヌーシーダ秋田	<b>イベントボランティアサポート事業</b> 県北地区を中心に、地域活性化などのイベントボランティア活動に、秋田杉の手作りカヌーで参加している団体。米代川で小中学生を対象にカヌーの乗船体験と自然観察を実施し、自然の大切さと豊かな心を養う。
性と人権ネットワーク ESTO	<b>秋田県内の小学校におけるセクシュアルマイノリティの人権啓発と対応調査</b> 小学校の養護教諭にセクシュアルティに対する正しい知識を得てもらうため、性や性別の悩みに関するパンフレットを送付。またこの問題で児童から相談があった場合の教育現場の対応の実態調査を行う。
秋田キャンパスネット	<b>マリーナ来てみーなプロジェクト</b> 秋田マリーナの2階の空きテナントを利用して、コミュニティカフェを運営。今まで訪れたことのなかった人をも引き付ける新たなイベントを企画・実施することで、マリーナを地域の人が集う場所とする。
あきたファミリーハウス準備会	<b>ファミリーハウス設立に向けた普及啓発事業</b> 長期入院児童を抱える家族のための滞在施設ファミリーハウス建設のために、セミナー開催と他県のハウスを視察する。

## 冠ファンド TOHO子育て安心ファンド 30万円コース

冠ファンドとしてご寄付いただいた東邦技術株式会社石塚三雄社長にも審査に加わって頂き、応募1件について、公開審査を経て採択と決定しました。  
事業実施にあたっては、スギッチファンドでコンサルティングをして十分な成果を上げるようにという要望が付されました。

団体名	事業名、事業概要
LD・AD/HD正しい理解の普及と支援を考える会 「こころ住まいる」	ソーシャルスキルトレーニング「セカンドステップ」の活動事業 LD・AD/HDに対する正しい理解を求める活動の一環として、幼児期から社会的スキルを身につけ、より良い人間関係を持つことができるようにレッスンをする。「セカンドステップ」プログラム(キレない子どもを作る)を使って、放課後学童支援施設等で28回実施する。

## 冠ファンド だんまや水産秋田まちづくりファンド 30万円コース

冠ファンドとして寄付をして下さった株式会社アジマックスの佐藤公重社長は、当日選考委員会にご参加いただけませんでしたでしたが、秋田の街が寂しくなっていることを憂え、元気なまちづくりを応援したいという思いを強く述べられました。  
ファンドには応募が3件あり、公開審査を経て1件採択されました。

団体名	事業名、事業概要
NPO法人 Yokotter	横手のあったかさを伝えるフォトブック Yokotterにはフォトコンテストという部門があり、そこに応募された写真データを横手の魅力を表現して伝えるフォトブックとして制作し、施設等に展示、閲覧してもらう。



公開審査会の様子



団体名	事業名、事業概要
NGO RASICA	<p><b>オフセットカフェ・オフセットティーを飲んで地上国の子どもへ灯りを！</b></p> <p>干ばつによる水源不足で電力危機が起こっているネパール。子どもたちの灯りのない不自由さを少しでも解消するために、ソーラーパネルとソーラーランタンの機器を現地に赴いて、現地NGOと協力して設置する。ソーラーパネルで発電した電気使用による環境価値を、日本でオフセットカフェ、オフセットティーとして販売し、ランタンの購入を増やしていく。</p>
<p>特定非営利活動法人 あきた海辺の自然学校</p>	<p><b>第10回海辺の環境教育フォーラム2010 in あきた白神(八峰町)</b></p> <p>今年で10回となる海辺の環境教育フォーラムは9月11日から八峰町で開催されるが、映画上映、基調講演、交流会、地域のおまつりなどに参加し、交流することにより、地元とのエコツーリズムをより発展させるネットワークを構築する。</p>
<p>NPO法人 秋田県よい本をすすめる会</p>	<p><b>秋田県読書活動推進事業</b></p> <p>読書離れへの対応として、また今年国民読書年、本会創立40周年を記念して、・読書フォーラム ・読書体験記コンクール を実施する。県民の読書への関心を高め、読書の活性化を語る。</p>
いぬ・ねこネットワーク秋田	<p><b>外猫(野良猫)の避妊・去勢手術の推進</b></p> <p>外猫に餌を与えている一般の人に、新聞等で避妊・去勢手術の補助を行うことを通知し、募集する。不幸な捨て猫、野良猫を減らし、人と猫が共生できる街づくりを目指す。</p>
あきたまるまるマルシェ	<p><b>あきたまるまるマルシェ わたしたい つながってきたおいしいもの 事業</b></p> <p>現在のライフスタイルとニーズに合わせて食文化を見直しながら、地域内外でもう一度共有し、伝承していく仕組みづくりを目的として次の事業を行う。</p> <p>「オーガニックフェスタ in あきた 2010」(8月21日 於セリオン)で“マルシェスタイル”を表現したブースを出展</p> <p>「オリジナルメニューの開発」</p> <p>「伝承すべきおばあちゃんの知恵、レシピ、ライフスタイル等の調査・記録・発信」</p>
なないろの鈴	<p><b>地域の医療的ケアを担う介護事業所設立事業</b></p> <p>医療的ケアを必要としながらも自宅で生活する子ども、高齢者が増えていることから、医療的ケアを担う介護事業所を設立する。当事者のみならず地域に医療ケアの環境を整備することで、安全で安心な生活を可能にする。</p>
NPO 横手“食と農ネットワーク”	<p><b>“なるほどトライ！横手の食と農”</b></p> <p>秋田ふるさと村を会場に、米粉料理、地場産野菜たっぷりのたこ焼きライスクイズ、箸育としてお箸の持ち方から食事のマナーの伝授 などの実施。幼児や若いお母さんたちに、食の大切さと日々の生活に農業は深く関わっていることを気付かせ、農業への理解と興味を持ってもらう。</p>



あきたスギッチファンドQ & A

Q：一般にファンドというと、融資を思いうかべますが…。

A：スギッチファンドを立ち上げるにあたって、2007年に県内のNPO等に「新しい資金調達の見学を作るとしたらどういうものがほしいですか」と尋ねたところ、助成制度への要望が多かったので、助成事業からスタートさせました。皆様の役に立つ助成制度をしっかりと作り上げて参りたいと考えております。